



やまおか在宅クリニック を紹介する記事



病院の実力「在宅医療」
医療機関別治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	受け持ち在宅患者(人)	往診(回)	自宅での看取り(人)
たけとみ	350	239	38
にのさか	190	206	55
山口内科	83	18	12
案浦	80	7	—
あおば	53	58	6
さくら病院	40	9	3
村上章林堂病院	33	12	11
清水	8	16	20
福岡	—	10	2
きむらしろう	—	10	2
斎藤医院	45	21	34
もちろみ	34	6	0
慶康内科医院	10	10	1
山口循環器科・内科医院	60	56	37
矢津内科消化器科	97	246	47
丸山病院	19	12	1
まつ	24	10	—
さくらの	22	18	7
志免総合診療所	30	24	12
けんせいホームケア	220	152	5
やまおか在宅	130	150	81
大分	—	100	135
ハート	100	135	15
児玉病院	35	1	3
呼吸器	8	25	0
熊本	—	60	10
療養所	60	10	10
月出在宅療養支援診療所	70	20	16
春日	10	13	3
イェス	5	1	0
イェスの聖心病院	5	1	0
金森医院	86	6	4
坂製ハート	60	12	3
宮崎	—	81	54
日高病院	81	54	22
のうしたに	60	6	10
和知川原生協	48	35	3
いちばら医院	37	15	19
田中外科医院	17	15-16	4

「の」はクリニック、「一」は無回答など。「受け持ち在宅患者」は、受け持っている在宅患者の概数。「往診」は2010年4月～6月に行った往診回数。「自宅での看取り」は2009年7月～2010年6月の1年間に自宅で看取った患者数。

在宅医療

病院の
実力

施設と自宅の距離が重要

大分編

今月の「病院の実力」は、患者の自宅や入所する施設に医師らが訪問する「在宅医療」を紹介する。在宅医療は、日時を決めて定期的に医師が訪れる「訪問診療」と、急変時に患者宅の要請に応じて昼夜問わず駆けつける「往診」がある。

在宅医療は主に、全国に約1万2000か所ある在宅療養支援診療所の開業医が支える。ただ、中には、

日頃診ている通院患者が在宅に移行した時だけ対応する診療所も多く、実態を把握するのは難しい。今回の調査では、インターネットなどで在宅患者を診ていることを確認できた806施設を抽出。昨年12月にアンケートを送り、463施設(57%)から有効回答を得た。

表には、受け持ち在宅患者数、昨年4～6月の往診回数、2009年7月から1年間に自宅(高齢者専用賃貸住宅、グループホームなどの施設も含む。老人ホームは含まない)で看取った患者数を示した。受け持った患者数は、各施設が訪

問診療に割く時間によって決まる。自宅での看取りの数は、末期がん患者を多く診る施設で多い傾向にある。在宅医療を希望する場

合、医療機関を探す時の最大のポイントは、自宅が往診可能な範囲にあるかどうかだ。一般的に自宅に近いほど、こまめな対応をしてくれる医療機関に対応可能かどうか、相談してみるの



山岡憲夫院長

訪問看護24か所と連携

大分の山岡院長「啓発活動に力注ぐ」

大分市東大道3の在宅専門療養支援診療所「やまおか在宅クリニック」は、県の立病院などでがん治療に携わってきた山岡憲夫院長が2009年7月に開設した。現在、担当する患者は約130人。24か所の訪問看護ステーションとも連携して訪問診療・往診をしており、市全域をカバーする。山岡院長は勤務医時代、がんの末期患者から「人生の最期を家で過ごしたい」を訴えられることが多かった。しかし、自宅を訪ねて治療に当たることは負担が大きい。そのため、制度を整えて

関係者への啓発活動に力を注ぎたい」と話す。

2010年(平成22年)11月20日

いのちの尊さ
大切さ考える
中津南高で人権講演会
中津市の中津南高校(小林啓子校長、591人)で人権講演会があり、県緩和ケア研究会代表世話人やまおか在宅クリニック院長(大分市)の山岡憲夫さん



講演する山岡憲夫さん

が「かけがえない今を生きていける」と題して講演した。山岡院長はがんの終末期を緩和ケア病棟で過ごす人々の、ひたむきに生きる様子を、心苦しさを取り除き、最後まで明るく生きられるようサポートする

ため、まずは患者のそばでひたすら傾聴することの大切さを話した。肺がんを患い26歳で亡くなった女性やそれを支えた友人の姿に触れ、「希望さえあれば人は生きていける。どんなに辛いときでも立ち直れる」と語り、命を大切にすることが、相手を大切にする。生きていけば絶対につらいことはない、逃げずに乗り越えてほしいと呼び掛けた。

